

【今月のベトナム総論】

～コロナ狂想曲の後始末～

日本政府は5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけを現在の「2類相当」から「5類」に移行する方針を発表しました。

2020年から始まった「コロナ対策」も1つの潮目が来たと言えるかもしれないですね。

一方、ベトナムはすでに日本よりも少し早くコロナについては「過去のもの」になりつつあります。

すでに日常生活でコロナによる制限などは感じることはないのですが、「政界」では、今頃になって、コロナ期の「総括」がされているような事件が起きています。

現在、ベトナムを揺るがす2つの汚職事件が国家を揺るがしています。

1つはコロナ感染拡大時に海外に住むベトナム人を対象にしたベトナムへの帰国便の手配について、不当に料金を高く設定した「帰国便事件」。

そしてもう1つは、新型コロナウイルスの検査キットの政府入札に関して不当に高く政府に購入させるよう働きかけたのではないかと、といわれている「検査キット事件」。

この2つのコロナに端を発した汚職事件が政界を揺るがし、多数の政府高官、財界有力者が告訴され、政治責任を取らされています。

そして、その波はついにベトナムでNo.2の権力者と目されていたグエン・スアン・フック国家主席（元首相）のテト休暇前の突然の辞任という事態に至りました。

国家主席の任期途中で辞任は、南北ベトナムが統一された1976年以降で初めてのことで国内外に衝撃を与えました。



(2017年11月11日、ダナンで開催されたAPEC2017首脳会議の際に安倍晋三首相とフック首相(当時)が散歩する様子) (写真:ベトナム通信社)

フック国家主席は首相在任時の評判もよく、その後、国家主席に任命され、昨年9月の安倍元首相の国葬にも「ベトナム代表」として出席しており、まさか、3ヶ月後にこのような事態になるとは夢にも思いませんでした。

事の真相は藪の中ですが、ある意味、「コロナにまつわる不透明な行政手続き」の「最終責任」をとった形と言えるかな、と思います。

一方で、1月8日には中国が新型コロナウイルス対策として実施してきた入国時の隔離措置を撤廃したことでベトナム北部の中国国境が本格的に開放されました。

この3年間、往来に不自由の多かった中国とベトナムですが、やっと正常化しました。

こちらもある意味、「コロナ対応の終焉」を感じさせる出来事でした。

【今月の「ピックアップニュース」】

「ベトナムでの不妊治療について」

「ベトナムの不妊治療は世界のリーダーになる可能性を秘めている」

原題：Vietnam has potential to be top infertility treatment destination

(2023年2月5日 Vietnam net Global より)

記事リンク：<https://vietnamnet.vn/en/vietnam-has-potential-to-be-top-infertility-treatment-destination-2106462.html>

こちらの記事はベトナムが「不妊治療」においてコストと実績のバランス面で非常に優秀な実績を上げている、という内容です。

コスト面ではアメリカの8分の1、シンガポールやタイなどの3分の1程度で、妊娠率などにおいてもほぼ同程度とされており、その「優秀さ」から最近では海外在住のベトナム人や非ベトナム人がわざわざベトナムへ来て治療を受けるケースも増えている、と記事は伝えています。

確かに私の周囲のベトナム人の知人でも、わりあい、「不妊治療している」というキーワードが出てきて、日本的な感覚でいうと、かなり費用がかかるイメージだったので、こういうとなんですが、「え、費用は大丈夫なの？」と聞いていたので、ある意味、「謎が解けた」感じでした。



(ホーチミン市の病院で不妊治療のカウンセリングをするドクターの様子)

なぜコストがそんなに安いのか、については、やはり一番は医療従事者の賃金の安さなのだと思います。

ちなみに具体的な料金感でいうと体外受精の場合、

- ・米国：最大 25,000 米ドル(約 330 万円)
- ・フィリピン、シンガポール、タイなど：10,660 ドル (約 140 万円)
- ・ベトナムで 2980 ドル (約 40 万円)

と、ベトナムがコスト的には圧倒的に安いことがわかります。

ただ、個人的な意見で言うと、やはり、熟練度が必要で、さらに一度、治療を行うと修復が難しい類の手術（美容整形）などは、やっぱり、ベトナムでは怖いなあ、、、と感じますし、実際、ベトナムの富裕層の一部が日本へ美容整形ツアーに来ているのを見ると、まあ、私の感覚と近いものがあるのでしょうか。

【最後に】

テト休暇も明けてベトナムの 2023 年が本格的に始まりました。

昨今では、中国からベトナムへの生産の一部移管の「大波」が来ておまして、製造工場や商社をベトナムで設立したい、というお問い合わせが殺到しています。

中国とアメリカと非常に上手な「バランス外交」を続けているベトナムの面目躍如、という感じですが、果たして、いつまで、そのような「360度外交」が続けられるのか、と少し心配になる面もあります。

以上 豊田英司